

## 《平成30年度 留学生能楽鑑賞教室を実施しました》

(1)日 時：平成30年5月30日（水）

18：00 ～ 21：30

(2)内 容：①能楽師による解説「能楽の楽しみ」

②狂言「盆山」および能「船弁慶」の鑑賞

※日本語、英語、中国語、韓国語の字幕付き

(3)会 場： 国立能楽堂(渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1)

(4)参加費用：参加料金は本協会にて負担しました。

(5)参加人数：38名

※中国：8名、韓国：2名、タイ：2名、台湾：2名、チリ：2名ドイツ：2名、フランス：2名、南アフリカ：2名、ロシア：2名、アメリカ：1名、アルゼンチン：1名、イギリス：1名、イスラエル：1名、イタリア：1名、カナダ：1名、ギリシャ：1名、シンガポール：1名、スイス：1名、スリランカ：1名、セルビア：1名、フィリピン：1名、ボスニアヘルツェゴビナ：1名、ミャンマー：1名

(6)実施状況：

本事業は、国立能楽堂が実施する「外国人のための能楽鑑賞教室 Discover Noh & Kyogen」を鑑賞するので協会が参加学生の募集を行っています。昨年度は6月下旬に実施されましたが、本年度は1ヵ月前倒しで、5月に開催されました。

はじめに能楽師のリチャード・エマート氏による解説が行われました。解説は全て英語で行われ、仏教との関わりがある能の作品が多いこと、能楽の舞台や所作、楽器に関する基礎についてお話を伺いました。

20分程度解説を聞いた後、狂言の「盆山」が上演されました。「盆山」は、劇中の随所にユーモアが盛り込まれており、登場人物である盆山を盗みに来た男が、盆山に隠れて盆山の所有者の要求に応じてものまねに、会場から笑いが起こり、留学生も楽しんでいる様子でした。また、現代語で上演されたので、日本語で鑑賞していた学生にとっても内容が理解しやすかったようです。

狂言の上演終了後、休憩を挿んで、能の「船弁慶」が上演されました。劇中の見所である平知盛の怨霊が、源義経に襲い掛かろうとする場面では、迫力のある音楽と謡に合わせて知盛の激しい舞や弁慶が数珠を使い、怨霊を法力で祈り伏せる様子が演じられ、怨霊退治の緊迫した状況が舞台の上から伝わってきました。

鑑賞教室終了後、学生から「今までインターネットでしか見たことがなかったので、見ることができ良かった」、「鑑賞を通じて、日本の伝統文化と現代社会のつながり少し見えた」などの感想が寄せられました。



集合写真(舞台前)